

瓜子姫子

楠山正雄

青空文庫

むかし、むかし、おじいさんとおばあさんがありました。ある日おじいさんは山へしば刈りに行きました。おばあさんは川へ洗濯に行きました。おばあさんが川でぼちやぼちや洗濯をしていますと、向こうから大きな瓜が一つ、ぽっかり、ぽっかり、流れて来ました。おばあさんはそれを見て、

「おやおや、まあ。めずらしい大きな瓜だこと、さぞおいしいでしょう。うちへ持って帰って、おじいさんと二人で食べましょう。」

といいいい、つえの先で瓜をかき寄せて、拾い上げて、うちへ持って帰りました。

夕方になると、おじいさんはいつものとおり、しばをしょって山から帰って来ました。おばあさんはにこにこしながら出迎えて、

「おやおや、おじいさん、お帰りかえ。きようはおじいさんのお好きな、いいものを川で拾って来ましたから、おじいさんと二人で食べましょうと思って、さつきから待っていたのですよ。」

「といって、拾^{ひろ}つて来^きた瓜^{うり}を出^だして見^みせました。

「ほう、ほう、これはめずらしい大きな瓜^{うり}だ。さぞおいしいだろう。早く食^はべたいなあ。」
と、おじいさんはいいました。

そこでおばあさんは、台^{だい}所^{どころ}から庖^{ほう}丁^{ちよう}を持^もつて来^きて、瓜^{うり}を二^ふつに割^わろうとしますと、瓜^{うり}はひとりでに中^{ちゅう}からぽんと割^われて、かわいらしい女の子^ながとび出^だしました。

「おやおや、まあ」

といったまま、おじいさんもおばあさんも、びつくりして腰^{こし}を抜^ぬかしてしまいました。
しばらくしておじいさんが、

「これはきつと、わたしたちに子^こ供^{ども}の無^ないのをかわいそうに思^{おも}つて、神^{かみ}さまがさずけて下^{くだ}さつたものにちがいない。だいじに育^{そだ}ててやりましょう。」

「そうですも。ごらんさい。まあ、かわいらしい顔^{かお}をして、にこにこ笑^{わら}っていますよ。」

と、おばあさんはいいました。

そこでおじいさんとおばあさんは、あわててお湯^ゆをわかつて、赤^{あか}ちゃんにお湯^ゆをつかわせて、温^{あた}かきもの着^き物^{もの}の中^{ちゅう}にくるんで、かわいがつて育^{そだ}てました。瓜^{うり}の中^{ちゅう}から生^うまれてきた子^こだ

からというので、瓜子姫子うりこひめこという名前なまえをつけました。

瓜子姫子うりこひめこは、いつまでもかわいらしい小さな女の子ちいでした。でも機はたを織おることが大だいすきで、かわいらしい機はたをおじいさんにこしらえてもらって、毎日まいにち、毎日まいにち、とんからりこ、とんからりこ、ぎいぎいばったん、ぎいばったん、機はたを織おっていました。おじいさんはいつものとおり、山へしば刈かりに出でかけます。おばあさんは川へ洗濯せんたくに出でかけます。瓜子姫子うりこひめこはあとに一人ひとり、おとなしくお留守番るすばんをして、あいかわらず、とんからりこ、とんからりこ、ぎいぎいばったん、機はたを織おっていました。

おじいさんとおばあさんは、いつも出でがけに瓜子姫子うりこひめこに向むかって、

「この山の上には、あまなじやくというわるものが住すんでいる。留守るすにお前まえをとりに来くるかも知しれないから、けつして戸とをあけてはいけないよ。」

といって、しつかり戸とをしめて出て行きました。

二

するとある日のこと、瓜子姫子うりこひめこが一人ひとりで、とんからりこ、とんからりこ、ぎいぎいばつ

たん、機はたを織おつておりますと、とうとうあまんじやくがやって来きました。そしてやさしい猫ねこなで声こえをつくつて、

「もしもし、瓜子姫子うりこひめこ、この戸とをあけておくれな。二人ふたりで仲なかよく遊あそぼうよ。」
 といいました。

「いいえ、あけられません。」

と、瓜子姫子うりこひめこはいいました。

「瓜子姫子うりこひめこ、少しすこでいいからあけておくれ、指ゆびの入はいるだけあけておくれ。」

「そんなら、それだけあけましょう。」

「もう少しすこあけておくれ、瓜子姫子うりこひめこ。せめてこの手てが入はいるだけ。」

「そんなら、それだけあけましょう。」

「瓜子姫子うりこひめこ、もう少しすこだ。あけておくれ。せめて頭あたまの入はいるだけ。」

しかたがないので、瓜子姫子うりこひめこは頭あたまの入はいるだけあけてやりますと、あまんじやくはするす
 るとうちの中うちへ入はいつて来きました。

「瓜子姫子うりこひめこ、裏うらの山かきへ柿とを取りに行いこうか。」

と、あまんじやくがいました。

「柿^{かき}を取り^とに行く^いのはいや。おじいさんにしかられるから。」

と、瓜子姫子^{うりこひめこ}がいました。

するとあまんじやくが、こわい目^めをして瓜子姫子^{うりこひめこ}をにらめつけました。瓜子姫子^{うりこひめこ}はこわくなつて、しかたなしに裏^{うら}の山までついて行きました。

裏^{うら}の山へ行くと、あまんじやくはすると柿^{かき}の木によじ登^{のぼ}つて、真^まつ赤^かになつた柿^{かき}を、おいしそうに取^とつては食^たべ、取^とつては食^たべしました。そして下^{した}にいる瓜子姫子^{うりこひめこ}には、種^{たね}や、へたばかり投^なげつけて、一つも落^おとしてはくれません。瓜子姫子^{うりこひめこ}はうらやましくなつて、

「わたしにも一つ下^{くだ}さい。」

といいますと、あまんじやくは、

「お前^{まえ}も上^あがつて、取^とつて食^たべるがいい。」

といいながら、下^{くだ}へおりて来^きて、こんどは代^かわりに瓜子姫子^{うりこひめこ}を木の上にのせました。のせるときに、

「そんな着^き物^{もの}を着^きて登^{のぼ}るとよごれるから。」

といつて、自^じ分^{ぶん}の着^き物^{もの}ととりかえて着^きかえさせました。

瓜子姫子^{うりこひめこ}がやつと柿^{かき}の木に登^{のぼ}つて柿^{かき}を取^とろうとしますと、あまんじやくは、どこから取^と

って来たか、藤ふじづるを持って来て、瓜子姫子うりこひめこを柿かきの木にしばりつけてしまいました。そして自分じぶんは瓜子姫子うりこひめこの着物きものを着て、瓜子姫子うりこひめこに化ばけて、うちの中はに入はいって、すました顔かおをして、またとんからりこ、とんからりこ、ぎいぎいばったん、機はたを織おっていました。

三

しばらくすると、おじいさんとおばあさんは帰かえって来きましたが、なんにも知しらないものですから、

「瓜子姫子うりこひめこ、よくお留守番るすばんをしていたね。さぞさびしかったろう。」

といつて、頭あたまをさすつてやりますと、あまんじやくは、

「ああ、ああ。」

といいながら、舌したをそつと出だしました。

するとおもての方が、急きゆうにがやがやそうぞうしくなつて、りつぱななりをしたお侍さむらいが大ぜい、ぴかぴかぬり立たてた、きれいなおかごをかついでやって来きて、おじいさんとおばあさんのうちの前まえにとまりました。おじいさんとおばあさんは、何事なにことがはじまったのかと

おも 思つて、びくびくしていますと、お侍はその時、おじいさんとおばあさんに向かつて、
 「お前の娘は大そう美しい織物を織るという評判だ。お城の殿さまと奥方が、お
 まえむすめはた 前の娘の機を織るところが見たいという仰せだから、このかごに乗つて来てもらいたい。」
 といいました。

おじいさんとおばあさんは大そうよろこんで、瓜子姫子に化けたあまんじやくをおかご
 に乗せました。お侍たちがあまんじやくを乗せて、裏の山を通りかかりますと、柿の木
 上で、

「ああん、ああん、瓜子姫子の乗るかごに、あまんじやくが乗つて行く。瓜子姫子の乗
 かごに、あまんじやくが乗つて行く。」

という声がしました。

「おや、へんだ。」

とおも と思つて、そばへ寄つてみますと、かわいそうに瓜子姫子は、あまんじやくのきたない
 きもの 着物を着せられて、木の上にしぼりつけられていました。おじいさんは瓜子姫子を見つ
 ると、急いで行つて、木から下ろしてやりました。お侍たちも大そうおこつて、あまんじ
 やくをおかごから引きずり出して、その代わり瓜子姫子に乗せてお城に連れて行きました。

そしてあまんじやくの首^{くび}を斬^きり落^おとして、烟^{はたけ}の隅^{すみ}に捨^すてました。その首^{くび}から流^{なが}れ出^だした血^ちが、きび^{がら}にそまって、きびの色^{いろ}がその時^{とき}から赤^{あか}くなり出^だしました。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：土屋隆

2006年9月21日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

瓜子姫子

楠山正雄

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>